

世界のことに関心を向けよう

学校所在府県：大阪府

学校名：羽曳野市立古市小学校

名前：山村 精一（理科）

実践教科：総合的な学習の時間

指導時数：4時間

対象学年：小学校5年生

対象人数：71人（2クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

貴重な体験をすることができたということに尽きる。日本で教師生活をしていく中では、体験することができないことばかりを過ごす毎日であった。教師海外研修にチャレンジし、研修に参加することができたことは、これからの自分の財産になった。

現地の学校の様子、NGO団体の取り組み、青年海外協力隊の方の活動の様子、そしてネパールという国の実態など、多くのことを多面的に見ることができた。また、参加者の方との毎日の事前学習会も、自分の考えを深めていくきっかけともなった。間接的に聞いたり、見たりするよりも、実際に自分の目で耳で体験することが改めて大切であるということも学んだ。

山中の現地の学校に訪問させていただき、実際に授業をさせていただけた。日本でいう1年生の子どもたちであったが、学校の方々のサポートもあり、無事に授業をすることができたことも、二度とないであろう貴重な体験である。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

また、ホームステイや現地の学校の見学により、子どもたちとも関わりを持つことができた。その子どもたちの様子を実際に知ることで、感じるものが多くあった。日本よりはハード面では劣ることがあるものの、勉強に対する熱意をすごく感じた。勉強によって身を立て、そして自分の将来を切り開いていこうという熱意は想像以上であった。こういったことに今後、自分も何かの形で関わることができないかという思いがさらに強くなった教師海外研修であった。

こういった活動に関心のある先生方には、ぜひチャレンジしてほしいと思う。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

日本の当たり前が、世界ではそうではないということを伝えること、これから自分自身が何かできることがないかということに気づいていくきっかけにすることがねらいであった。

担任を持っていないために、時間数や取り組みが制限されるという条件であった。そこで、興味のある先生方が、今後も活用できるように、または参考になるようにと考え、作成した実践である。そのためにスライドを中心とした実践となった。

子どもたちは、普段からメディア等を通じて、世界のいろいろな情報を手に入れることができ、また知ることもできる。しかし、そこに興味を持てるかということ、なかなかそうはいかない。やはり他人事であり、受け流してしまうことも多い。

そこで、まずは他国のことにも関心を向けるようになってほしいと考えた。そのため、今回のネパールでの体験をいろいろな分野で紹介していった。ネパールの様々な実態、状況、考えなどを勉強していく中で、子どもたち自身の分かったこと・気づいたこと・思ったことをどんどん挙げていき、共有することで、多様な考えを知るようにしていった。

そこから、世界中におかれている様々な状況を学び、日本を始め世界中の国が互いに協力し合っているということを知り、これから自分でも何かできないかということを考えていこうという取り組みを行った。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ネパールの国の様子を知る *ネパールの実態を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none">●ネパールの国旗・地理的状況・経済事情・観光・食事・教育について知る。●先進国、開発途上国、後発開発途上国という国が世界にあることを知る。●インフラ・町並み・寺院・生活の様子を知る。●日本とネパールを比べて、比較して考える。	<ul style="list-style-type: none">●自作パワーポイント●ワークシート

<p>2 時限目</p> <p>ネパールの学校・ホームステイ先の様子を知る</p> <p>* 都会の私立学校と地方の山中にある公立学校の実態を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問したカトマンズの私立学校の実態を知る。 ● 訪問した山中にある公立学校の実態を知る。 ● 教室や学校生活から、日本との違いを考える。 ● ホームステイ先の様子から、どういった生活を送っているのかを知る。 ● 宗教観の違いを知り、日本との違いを考える。 ● 日本、ネパールの良さ・違いを比較して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自作パワーポイント ● ワークシート ● 現地で購入したネパールの教科書
<p>3 時限目</p> <p>日本とネパールの良さ・違いについて考える</p> <p>* 日本とネパールの生活・文化・考えの違いから学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまで学んできた内容を振り返り、日本やネパールの良さを発表していく。 ● 「レヌカの学び」をペアで行い、日本とネパールの生活・文化・考えの違いを考える。 ● 「ネパールは～な国だ」ということを自分なりに、理由をつけてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自作パワーポイント ● ワークシート ● 「レヌカの学び」のカード（子どもが取り組みやすいように一部修正）
<p>4 時限目</p> <p>これから自分はどうすべきか？</p> <p>* 自分にできることはないかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● JICA 地球ひろば「学校に行けない世界の子どもたち」から、世界の子どもたちの実情を知る。 ● SDGs に関連する映像から、世界各国が取り組んでいる内容について知る。 ● 世界で活躍する日本人、JICA の取り組みを知り、国際協力について学ぶ。 ● 自分たちに何かできることがないかを考える。 ● これから自分が、世界のいろいろな国に対してどういったことが大切かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自作パワーポイント ● ワークシート ● JICA 地球ひろばのフラッシュコンテンツ ● SDGs についての映像

3. 授業の詳細

1 時限目：ネパールの国の様子を知る

ねらい…ネパールの実態を学ぶ。

◆内容◆

- ① 日本に旅行に来る外国人の目的を考える。
- ② 日本の 1960 年代ごろのごみで汚れた街の様子の写真、ネパールのごみであふれた橋の下の写真の様子から、分かったこと・気づいたこと・思ったことを挙げていく。
- ③ ネパールの地理的・国旗の意図することを知る。
- ④ ネパールの貨幣価値を知る。
- ⑤ ネパールの食事について知る。
- ⑥ ネパールの世界遺産について知る。
- ⑦ ネパールの学校生活・教育制度の仕組みについて知る。
- ⑧ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。
- ⑨ 先進国、開発途上国、後発開発途上国の実情を知る。
- ⑩ ネパールのインフラ設備について、動画などを通して知る。
- ⑪ ネパールの生活、文化、寺院等を知る。
- ⑫ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。
- ⑬ 日本の良さについて、意見交流する。



カトマンズの街並み



自分の考えを記入する様子

! ココがポイント

- ▶ ネパールという国自体を知らない子が多い。まずは興味を持たせるために、ネパールの経済の様子や食事、そして自分たちの一番身近な学校の仕組みを紹介していく。
- ▶ 興味を持たせるために、写真・動画を使うようにしていく。
- ▶ ネパールが遅れているという考えにならないように、日本もこういう時代があったということもしっかりとおさえておく必要がある。

児童の反応

- ▶ 日本と違う様々な実態を知ること、どの写真・動画に対しても、驚きの声が上がっていた。どんな国なのか非常に興味を持ったようで、次の時間を楽しみにしていた。

児童の感想

- ▶ ネパールに1回行ってみたいと思った。
- ▶ ネパールは貧しいところもあるが、その国の人は、とても良い国だと思っていることが分かった。
- ▶ 日本には良いところがたくさんあると思った。

◆所感◆ ネパールという国の実情を知ること、とても興味を持って授業に参加していた。子どもたちは、日本との数多くある違いに驚くことも多かった。学校制度の違いなどは、「ネパールの方がいいから、ネパールに行きたい!」という子もいた。子どもの中に、日本では当然であることが、外国ではそうではないということに気づききっかけの足がかりとなった。しかし、ネパールを紹介していく中で、インフラ面などの日本よりも進んでいないところに目を向けてしまう子がおり、ネパールに対してのマイナスイメージを持たせてしまうこともあったのが反省である。

2時限目：ネパールの学校・ホームステイ先の様子を知る

ねらい…都会の私立学校と地方の山中にある公立学校の実態を学ぶ。

◆内容◆

- ① 前時のネパールの実態を簡単に復習する。
- ② カトマンズ市内にある私立学校の様子を知る。
- ③ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。
- ④ 地方の山中にある公立学校の実態を知る。
- ⑤ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。
- ⑥ ホームステイ先の様子を紹介し、どのような生活環境かを知る。
- ⑦ 紹介した学校、環境で暮らす子どもたちが、学校や勉強を大切にしていることを知る。
- ⑧ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。
- ⑨ 宗教観の違いから、生活や風習に大きな違いがあることを知る。
- ⑩ ネパールの教科書からも、宗教に対する考えが違うことを知る。
- ⑪ 世界にはいろいろな国があり、違いがあることから、日本・ネパールの良い面・違う面についてワークシートに記入し、意見交流する。
- ⑫ 日本とネパールのどちらが良いと考えるかワークシートに記入し、意見交流する。



訪問先の学校の様子

!ココがポイント

- ▶ 学校の様子は、日本との違いが分かるようにする。
- ▶ 環境によるハード面では、日本よりも劣ることもあるが、勉強への取り組む姿勢の熱心さについて触れておく。
- ▶ 国の考えの違いには宗教というものも大きく影響することをおさえ、野良牛からその考えの違いに気づかせる。



自分の意見を発表する様子

児童の反応

- ▶ 学校の様子の違いには大きく興味を示していた。ネパールの子どもたちが一生懸命勉強をする様子から、自分たちもそうすべきだという感想を持つ子どもも多かった。

児童の感想

- ▶ 世界にはいろいろな国があって、いろいろな違いがあるんだなあと思った。
- ▶ いろいろな国では、日本の当たり前ことは通用しないと思った。

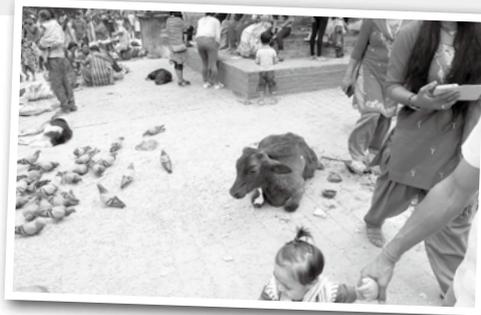
◆所感◆ 環境によるハード面においても学校の様子の差があまりにも大きいので、日本の良さを際立たせてしまうこともあったことが反省材料である。具体的にどういうことにごんばって、どういう勉強をしているかというところまでふみ込んで紹介していく方が良かったと考える。学校の子どもたちの様子、ホームステイ先の子どもたちの勉強に取り組む姿勢から、一生懸命勉強していること、勉強することが大事だということも子どもたちに伝えたかったのが、その点は伝えられたと思う。宗教観の違いから、生活も大きく左右することなども含め、「日本の当たり前」は、世界ではそうではないということが伝わってきたことが成果であった。

3時限目：日本とネパールの良さ・違いについて考える

ねらい…日本とネパールの生活・文化・考えの違いから学ぶ。

◆内容◆

- ① 前時の世界のいろいろな違いについて復習する。
- ② 「レヌカの学び」(学年の実態に向けて修正したもの)に取り組むにあたり、レヌカさんの背景を知る。
※「レヌカの学び」は、ろう学校の校長であるレヌカさんが、日本とネパールで感じたことを9枚のカードにまとめたもの。そのカードを日本とネパールに分けていく。
- ③ 2人1組でカードの内容を考えて、日本とネパールに分けていく。
- ④ 答え合わせをして、それぞれのカードの意図することを知る。
- ⑤ 「レヌカの学び」に取り組んでみて、疑問に思ったこと、意見の違ったカード、理由の知りたいカードを発表していく。
- ⑥ 「ネパールは～な国だ」と自分なりにまとめて、その理由を発表し、意見交流をする。



人と共に暮らす牛たち

! ココがポイント

- ▶ 「レヌカの学び」は、2人組(多くても3人)でする方が意見交換をしやすい。それ以上になると、なかなか意見を出さないことが多いので、配慮が必要。
- ▶ 「ネパールは～な国だ」とまとめることが、今までの学びとまとめとなるので、理由をしっかりと書かせるようにする。

カードに取り組む子どもたちの様子▶



児童の反応

- ▶ カードを通して考えるというのは、ゲーム感覚で楽しめるので、非常に盛り上がった。日本のことだと思っていたことがネパールのことであったり、その逆もあったりと、文化の違いに改めて気づくことも多くあった。

児童の感想

- ▶ ネパールと日本では、同じところや違うところがあるんだなとよく分かった。
- ▶ 日本との当たり前が全然違うし、それぞれ考え方もいっぱいあることが分かった。

◆所感◆ 「レヌカの学び」は、外国と日本の違いを考えるのに取り組みやすい教材である。実態に応じて、修正することで、非常に意欲的に取り組むことができた。 具体的な内容が多く、「遅寝遅起き」「軽い風邪で学校を休む」というように、意外な視点からのとらえ方が子どもたちには驚きであった。身近なことから、世界にはいろいろな考えがあるということを改めて気づく取り組みであった。「ネパールは～な国だ」とまとめさせ、理由を書かせたが、子どもたちなりに授業で学びとったことを表現することができていたことが良かった。

4時限目：これから自分はどうすべきか？

ねらい…自分にできることはないかを考える。

◆内容◆

- ① 世界には、いろいろな課題があることを知る。
- ② JICA 地球ひろば「学校に行けない子どもたち」から、子どもが学校に行けない実態を知り、意見交流をする。
- ③ SDGs の目指すもの、取り組みを知り、世界中で互いに支え合おうとしていることも知る。
- ④ 日本人、学校、市民、企業、国が世界中でいろいろな協力を行っていることを知る。
- ⑤ JICAに関わる人たちが、世界各地でいろいろな協力をしていることを知る。
- ⑥ 自分たちに何かできることはないかをワークシートに記入し、意見交流をする。
- ⑦ ナマステという挨拶、ホームステイ先の子どもの幸せに対する考えから、ネパールの良さを伝える。
- ⑧ 世界にはいろいろな国があることを振り返り、関心を持つことの大切さを知る。
- ⑨ 今までの授業で学んできたこと、感じたことを発表し、意見交流をする。



薄暗い中、勉強に取り組む



現地の学校で取り組んだ書道の作品

児童の反応

- ▶ 学校に行けない子どもが、世界では数多くおり、女性だから行けないという現実には驚いていた。自分たちが勉強を頑張ることも世界のためになるという視点は、子どもたちの励みになったようである。

！ココがポイント

- ▶ SDGs の紹介については、やや難しいところがあるので解説を入れながらするとより分かりやすくなる。
- ▶ 自分にできることは、どんなことでも認めていくようにして、まずはそういう意識を持つことの大切さを伝える。

児童の感想

- ▶ 世界にはいろいろな国がある。私も他の人が幸せになれるようがんばろうと思った。
- ▶ 日本と世界の違いや、世界が平和であることがどれだけ大切かが分かった。自分たちが世界に対し、どんなことを協力すると、世界中のひとりひとりが幸せな生活ができるかということを考えることができた。

◆所感◆ 「JICA 地球ひろば」であったり、SDGsの取り組みについての動画であったり、子ども向けの多くの教材がある。その影響なのか、「今日の授業が一番印象に残った」という児童もいた。こういったことから、こういった教材を今後も活用していきたい。自分たちに何ができるのかということは、やや難しかったようだった。ここをメインに全授業を組み立てていく方が良かったのかもしれない。

4. 成果

日本の当たり前が、世界ではそうではないということを伝えることと、これから自分自身に何かできることがないかということに気づいていくきっかけにすることがねらいであった。

授業の当初は、「日本が良い！」という子が多かったが、後半は「ネパールもいいな」「世界にはいろいろな考えがあるんだ」という意見が出てくるようになっていったことは成果の一つである。

また、毎回授業を楽しみにしてくれており、世界のことを学ぶということは、子どもたちにとっては大きな魅力のあるテーマなのだと感じた。

今回の授業を通して、日本以外の国のことについて学び、考えたことが、関心をもつきっかけの一つとなることができたと感じている。

また、教師海外研修に参加する前は「開発教育」「持続可能な取り組み」ということについて、私自身が自ら学ぼうという意識は低かった。しかし、教師海外研修終了後、こういったことに対して意識を持ち、学んでいくようになった。こういった意識の変わったことも、大きな成果の一つでもある。

5. 課題

今回の授業は、教師主導型で進めてきた。担任でないことから、時間の制約もあり、また伝えたいことが多かったことから、時間的に毎回ぎりぎりの授業展開となってしまった。もっと授業内容を絞り、焦点化することで、より子どもが考え、活動する時間が確保できたはずである。

また、授業の内容としては、写真も効果的な場合もあるが、動画の活用が何よりも効果的であった。説明よりも、見せれば分かる動画をもっと活用すべきであった。

今回の実践で、子どもたちは毎回、興味を持って授業に取り組んでいた。世界のことに関心を持たせることが、小学校段階では必要なことだと考える。そのためにも、今回の実践が単発で終わることのないように、継続して取り組んでいかなければならない。

個人だけの取り組みで終わることなく、今回の経験を学校内の教員にも伝え、また学校内でも開発教育への取り組みを啓発していけるようにしていきたい。

参考資料

【参考教材】

- ・レヌカの学び（開発教育協会発行）

【参考ホームページ URL】

- ・ About HoNote 市場調査レポート 2016 年 <https://honote.macromill.com/>
- ・ 東京都環境局 <http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>
- ・ THE STATE OF THE WORLD' S CHILDREN 2001 <https://www.unicef.or.jp/library/sowc/2001.html>
- ・ 「ヒマールチュリ」 ホームページ <http://www.page.sannet.ne.jp/t-hata/roki/top.html>
- ・ JICA 地球ひろば「ぼくら地球調査隊ウェブコンテンツ」 <https://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>
- ・ 外務省「SDGs（持続可能な開発目標） 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html
- ・ 「国際理解教育実践資料集－世界を知ろう！考えよう！－」 3 様々な国際協力 <https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/ku57pq000006cqk3-att/3.pdf>
- ・ THE WORLD WE WANT <https://www.worldwewant.2015.org/children>
- ・ 国連広報センター 2030 アジェンダ http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/